資料③－１

てらすま
terasuma.jp

RightARM
～時代を一歩前へ～

テラスマイル株式会社

©Terrace mile.INC 2021

会社紹介

創業	2014年4月
本社	宮崎県
開発拠点	浜松市
従業員数	10名

＜主な株主＞
- (株)エムスクエア・ラボ（やさいバス）
- グローバルブレイン/JAグループ
- Future Food Fund（オイシックスなど）
- 宮崎太陽キャピタル(株)/宮崎太陽銀行
- (株)ドーガンベータ
- 山口キャピタル(株)/山口フィナンシャルG
- 三井住友太陽キャピタル(株)
- K4Ventures/関西電力
- 昭光(株)/筑邦銀行

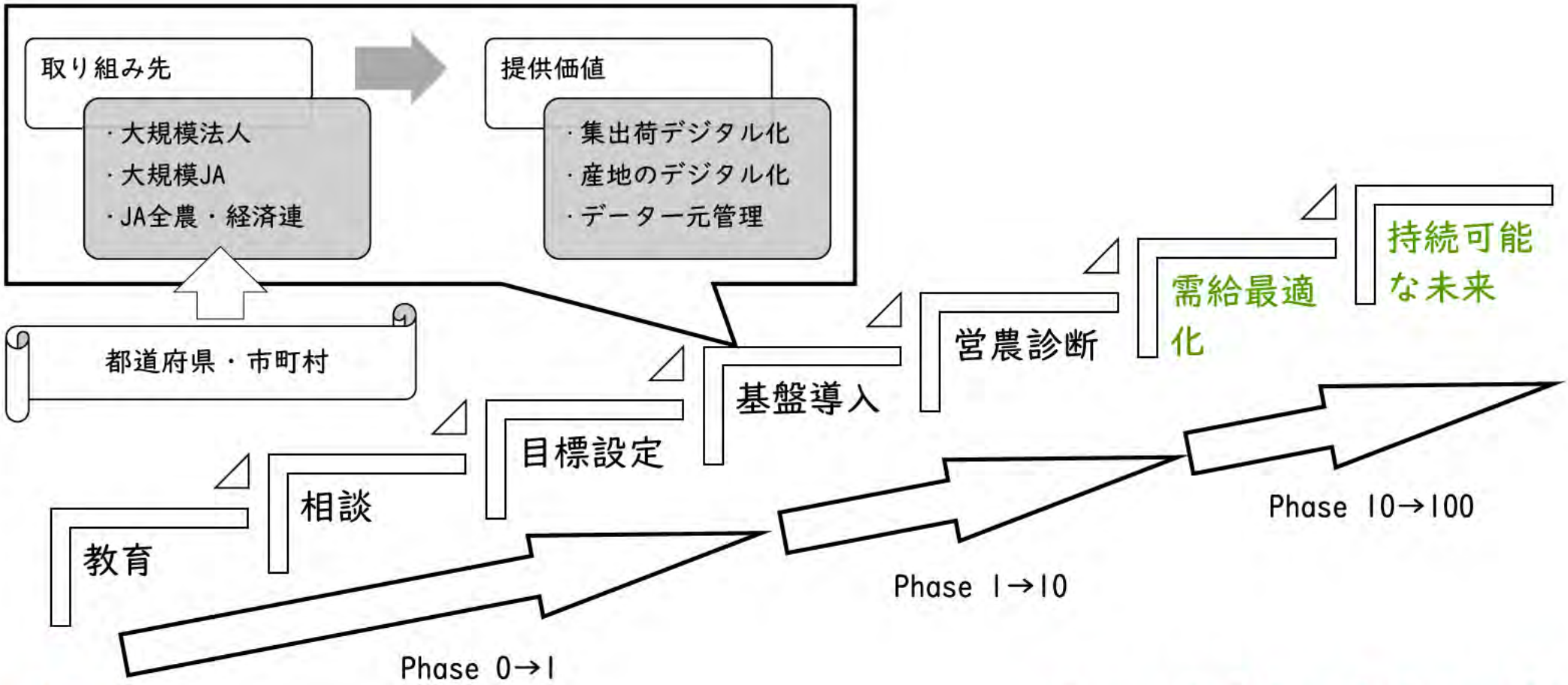
事業内容
- 戦略・教育支援のための農業データ基盤「RightARM」の提供
- 農業経営者・産地が活用するための分析サービスの提供（予測・計画・見える化）

取引先
- 行政：農研機構・宮崎県・こゆ財団・熊本市（JA熊本市・JA鹿本）・宮崎市・日南市 他
- 法人：鹿児島堀口製茶・ジェイエイフーズみやざき・大崎農園 他
- 生産組合：JA宮崎経済連・門川町高糖度トマト生産組合・黒生野アグリ研究会 他

©Terrace mile.INC 2021

テラスマイルが存在する理由（成し遂げること）

- 農業のデジタル化とデータ活用の風土を醸成し、国内における産地形成を最適化する



©Terrace mile.INC 2021

てらすま
terasuma.jp

MISSION

私たちは全ての営農者を豊かにし、国家を守ることを創造する

VISION

データ流通で農業をとりまくビジネス環境をよくする。

自動的に情報を集め、戦略的に情報を活用し、わかりやすく伝える。

VALUE

顧客満足度（経営貢献）
誰がどのように満足するのか？顧客の経営収支に貢献できているのか。
経常利益率
オペレーションの自動化、データ収集の自動化により利益を生む。
社会課題の解決
アナログからデジタルへ。生産性の向上。地域経済への貢献。自立経済の創造。
ベンチャーマインドの体現
自ら高い目標を掲げ自分で考えて動く。常に自責で考える。

みんなが楽しく暮らせるまちづくり

©Terrace mile.INC 2021

既存事業の内容（分析サービス）

遠隔制御

管理

ロボット

土壌

センシング

販売

配送

育成

WAGRI

データ基盤
RightARM

自動的に情報を集め、戦略的に情報を活用し、わかりやすく伝える。

©Terrace mile.INC 2021

©Terrace mile.INC 2021

熊本県

熊本市
ナス　部会
スイカ　部会
ニンジン　生産法人

鹿児島県

茶　生産法人
ダイコン　生産法人

宮崎県

JA宮崎経済連
・宮崎県・
宮崎市・日南市

ピーマン　部会
キュウリ　部会
高糖度トマト　部会
カラーピーマン　部会
ホウレンソウ　生産法人
マンゴー・日向夏

©Terrace mile.INC 2021

ワークショップの姿

戦略（計画試案）支援

社員教育支援

目標設定支援

進捗（振り返り）支援

©Terrace mile.INC 2021

スマート農業実証プロジェクトの風景

（施Ｈ０５）

ＪＡ熊本市　ナス部会
ＪＡ鹿本　スイカ部会
出荷予測・データ活用

（露Ｈ０９）

JA宮崎経済連/ジェイエイフーズみやざき
データ駆動型農業経営・出荷予測

（茶Ｈ０２）

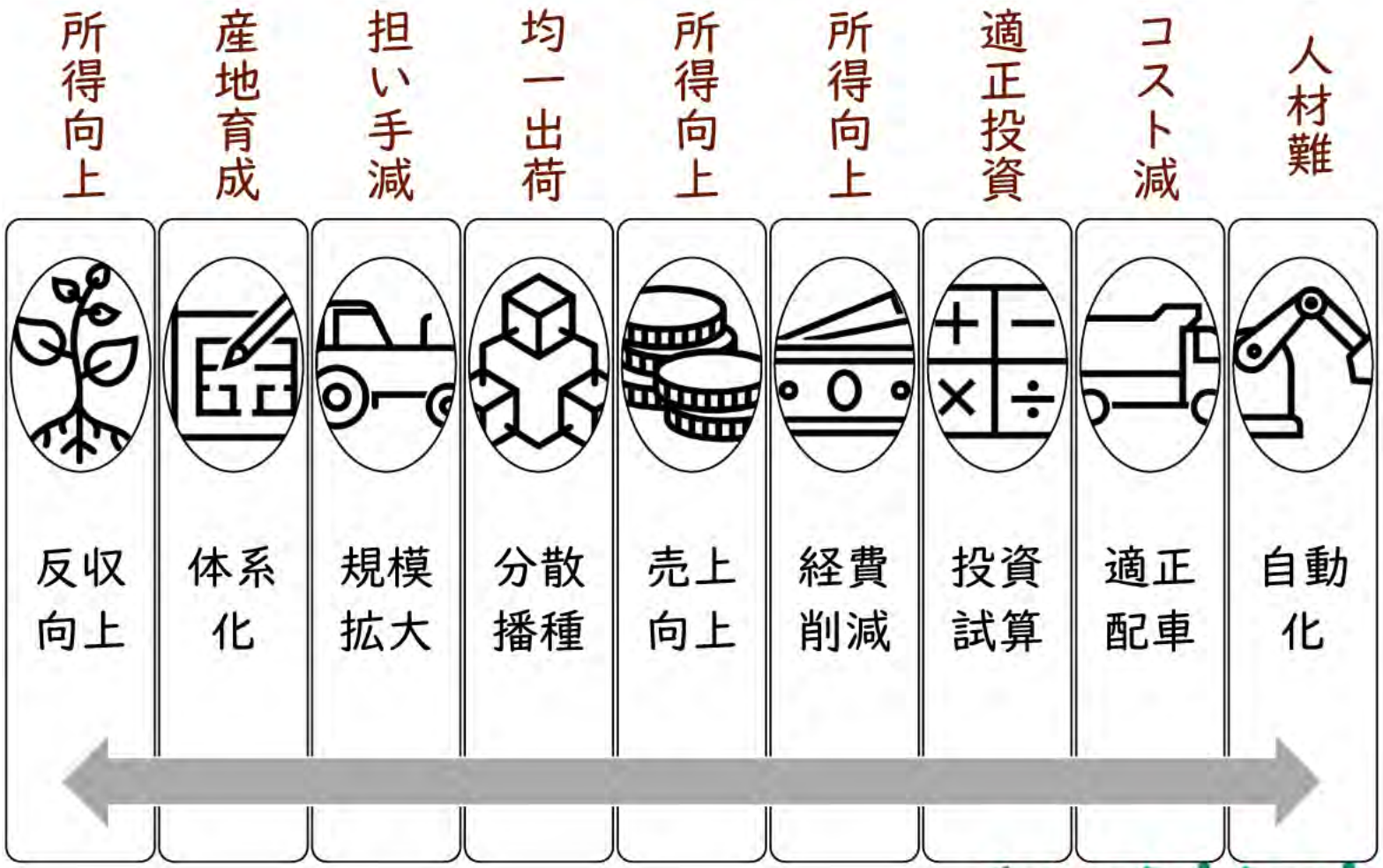
農研機構　鹿児島堀口製茶
データ駆動型農業経営

（施２Ｈ０６）

こゆ財団
データ活用・収穫ロボットの効果測定

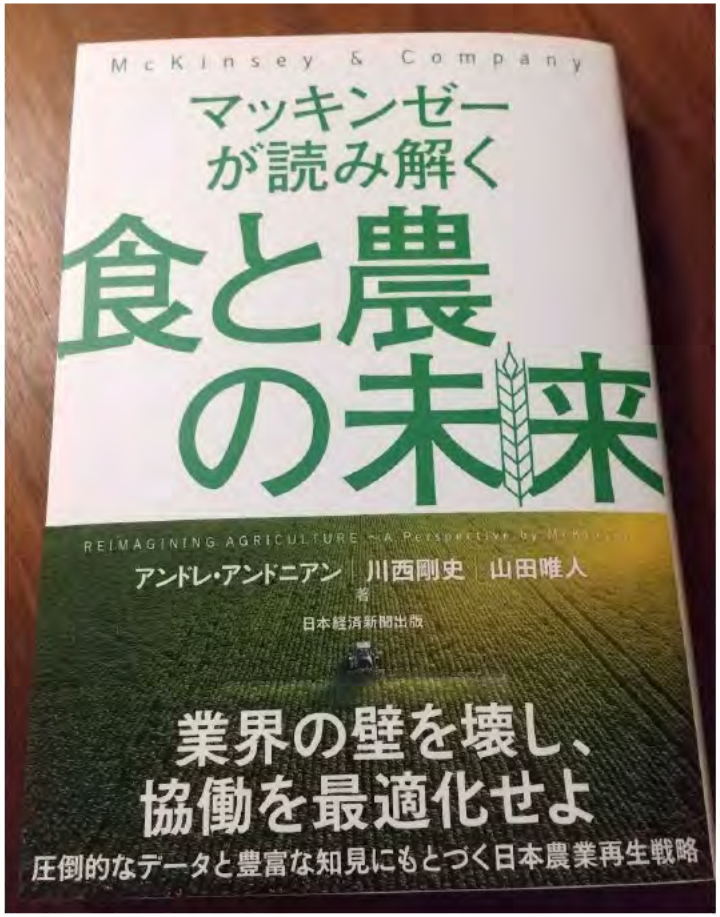
©Terrace mile.INC　2021

データ活用の目的



©Terrace mile.INC 2021

弊社と比較されるサービス



センシング

RightARM for WAGRI

ELEASE

各位

2021年02月04日
テラスマイル株式会社

スマート農業・農業支援サービスの実装及び普及展開における課題である、データ加工を簡易に行うためのツール群「RightARM for WAGRI」をリリース

データ分析・活用に特化した農業経営クラウドサービス「RightARM」。この機能の一つであるセンサーコンバータを「農業データ連携基盤協議会」（以下、WAGRI会員）向けに提供します。

テラスマイルでは、農業経営におけるデータの活用を、DX化が推進される今の時代に普及し、時代を一歩前に進めるべく、自社内で活用されているツール・機能の一部を、農業データ基盤 WAGRI上で公開していくことにしました。その第一弾として、、会員向けに「センサーコンバータAPI」として公開します。社内作業の効率化のために開発されたツールであり、普及によりデータ活用の促進（社会の課題解決）を目的としていることから、基本的にWAGRI会員へは無償で提供し、業務に活用頂きたいと思います。

- テラスマイルという会社とRightARM（ライトアーム）の取組

テラスマイル株式会社（本社：宮崎県児湯郡新富町、研究開発拠点：静岡県浜松市）では、創業から7年間、農業分野にデータを活用するという活動を行っている会社です。創業者がシステムインテグレータの新規事業を担当していた折、

©Terrace mile,INC 2021

大企業との連携（2度目の挑戦）

テラスマイルでは、2021年3月にJAグループ、オイシックス、関西電力グループを引受先とした第三者増資による資金調達を実施しました。

＜投資目的＞

1. RightARMの全国展開に伴う機能強化
2. 出荷予測機能の品目拡大
3. 新規事業（圃場カルテ・農業経営指針のデジタル化）への投資
4. 3グループとの連携事業の創出
   - JAグループ（全中・全農・農中）
   - FFFグループ（オイシックス、豊通）
   - 関西電力グループ

農業のデジタル化とデータ活用により、社会課題の解決を目指すテラスマイルは、JAグループ・Future Food Fund・関西電力グループとの事業連携を目的とした第三者割当増資を実施しました。

JAグループ・Future Food Fund・関西電力グループと共に、農業データ活用基盤「RightARM」の機能強化と、新たな農業経営者支援サービスでの事業連携・開発実証を実施予定。

テラスマイル株式会社　　2021年3月8日 15時02分

14 いいね！ シェア　ツイート　はてな　素材DL　その他

テラスマイル株式会社（本社：宮崎県児湯郡新富町）は、農林中金イノベーション投資事業有限責任組合(運営者：グローバル・ブレイン株式会社)、オイシックス・ラ・大地株式会社の投資子会社Future Food Fund株式会社が運営する「Future Food Fund 1号投資事業有限責任組合」（以下、「FFF1号」）、関西電力グループの合同会社K4 Ventures を引受先とする第三者割当増資を実施しました。

- **テラスマイルが解決を目指す社会課題**

テラスマイルは、農業経営者の方々がデータを活用し、収益を向上させていく社会を目指して2014年に設立されました。今後１０年の農業において、農業経営者が稼ぐ野菜生産を実現するためには、生産性向上と出荷量の先読みが必要と考えており、私たちは農業のデジタル化で時代を一歩前に進めていきます。

私たちは、農作物流通をデジタル化し、農業経営者の勘と経験を最大化することが、重要と考えています。経済農業の強化と国防としての農業、このバランスを取りながら、**産地と消費の関係を見える化し、最適化することが、持続可能な未来に繋がる**と信じ、企業活動の中で課題解決を目指します。

サービス費用

スマート農業相談サービス	年間12万円	オンラインのみ
スマート農業・RightARM導入準備サービス	年間36万円	オンライン・現地
RightARM導入に伴うエンジニアリングサービス（データ連携・データ移行・予測プログラム導入・見える化画面改修など）	1,000万円～3,000万円　※1	産地・法人への導入時における改良などの役務提供が主体。 期間：1年～3年間/品目
RightARM　年間保守・利用料	年間36万円	拠点単位
行政・生産者グループ向け営農研究会	50～60万円	期間要相談（1作型・1シーズンを想定）、生産者10名まで
スマート農業実装、データ分析・活用についての検討会及びワークショップ	随時ご相談 ※2	オンライン・現地 農業普及員・営農指導員向け可

エンジニアリングサービス	価格事例/品目
RightARM　初期導入費	50～150万円
個別機器/システムとのデータ連携	100～200万円
データ移行・整理	50～150万円
出荷予測準備（データ調査・構築）	150万円
出荷予測アルゴリズム実装	350万円
見える化画面改修	40～120万円

©Terrace mile.INC　2021

基盤導入のスケジュール

- 弊社では、「農業・経営・IT」の切り口から、農業ITから始まりスマート農業へと続く10年間を現場で伴走してきました。その経験から、農業経営へデジタル化を実装し、データを経営の意思決定に活用するためには３年から５年かかると考えています。
- 弊社では、データの分析・活用の切り口をまとめたフレームワークを開発し、それを用いて実装を進めていますが、それでも戦略活用や運用定着には３シーズン伴走する必要があります。弊社が推奨するスケジュールをご紹介いたします。

１年目	２年目	３年目	４年目以降
→　→　→ ＜導入準備＞ 目標設定 データ整理 業務見える化 データ設計 ワークショップ	→　→　→ ＜実証１＞ Excel実証 運用画面組み立て 蓄積データの解析 データモデリング RightARM仮運用	→　→　→ ＜実証２＞ 出荷予測実証 RightARM実装 データ連携 自動化 戦略・活用の伴走	→　→　→ ＜戦略活用＞ チューニング 画面調整 効果検証

※弊社では、クラウドサービスのみを提供しております。受託での業務システム開発は行っておりません。

©Terrace mile.INC 2021

ニーズ把握とサービス開発手法

データ分析体系

- 産地vision
- 指標活用
- 81matrix
- 分布
- 10point
- 仮説創造

STEP 1 目標設定（所得・反収量・リスク対策）

反収22トン
所得500万円

- 生産計画を作成
- 採算ラインを試算
- 比較モデルを選定

STEP 2 見える化（先月稼いだ理由）

月次レポート

出荷量
- 水管理
- CO_2施用
- DIF
- 日射量

マーケット
- 市場単価
- 市場別出荷量
- 市場別売上
- 産地規格・サイズ

STEP 3 改善箇所抽出

予報・予測
- 市場単価傾向
- 出荷量傾向
- 天気・温度・降水量

STEP 4 目標達成！

定期的にワークショップを実施

©Terrace mile.INC 2021

JAグループ/農林中央金庫との実証による次期展開
農業データ活用による農業経営と地域の発展へ向けた取り組みへ

- 実証を通じて、農業経営の高度化を目指すとともに、農業経営の発展を促進させるサービスの開発、農業所得向上による地域活性化を目指してまいります。

出所　2021/3/5 日本農業新聞

農業データ活用で実証実験
経営高度化めざす
アグラボ・JR東日本など

JAグループが開設したアグベンチャーラボと農林中央金庫、JR東日本スタートアップなどは4日、ハウストマトなどを栽培する福島県いわき市の農業法人で、データを活用した農業経営の効率化に関する実証実験を始めると発表した。データの活用、分析サービスをするベンチャー企業と連携。収益改善や農業経営の高度化を目指す。農業経営の発展を促すサービスの開発などにつなげる狙い。

実証実験は同市の農業法人「JRとまとランドいわきファーム」で行う。同法人はJR東日本と地元の生産者が出資してつくった。

実証では、宮崎県新富町に本社を置くベンチャー企業・テラスマイルの営農支援サービス「RightARM（ライトアーム）」を利用する。温度・湿度といった栽培環境のセンサー、出荷販売や資材購入の帳票、市場価格などのデータを一元化し、分析する。その結果に基づき、効率化に向けて生産工程を見直す。収量や販売単価の向上など収益改善を目指す。

テラスマイルは、アグベンチャーラボのベンチャー企業支援プログラム「JAアクセラレーター」の第2期で採択され、その後もラボ側からの指名で連携を続ける。「JR東日本スタートアッププログラム」からも支援を受ける。JAグループ、JR東日本グループとともに、データ活用による効果を検証する。

アグベンチャーラボは「この実証実験の成果を踏まえて、他の地域・生産者への展開を検討し、農業・地域の発展に貢献していきたい」としている。

労働生産性と資本生産性の見える化によるデジタルな農業経営指標の実証